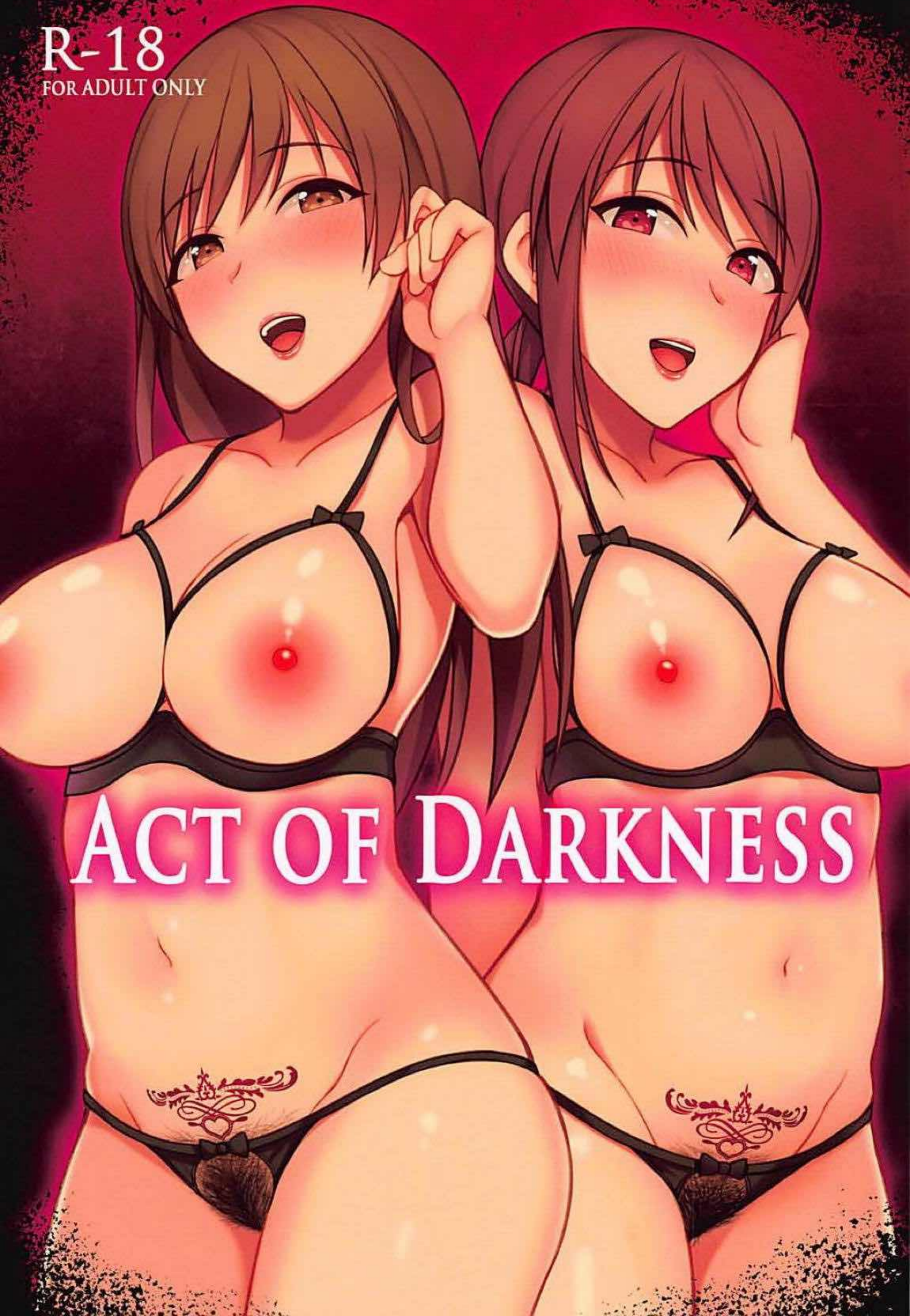


R-18
FOR ADULT ONLY



ACT OF DARKNESS



ACT OF DARKNESS

ガチャ

それじゃ美波
行ってくるよ

いってらっしゃい
あなた♡

努めて明るく笑顔で娘と一緒に
求職中の夫を見送る毎日

でもそんな生活はもう限界だった

一流企業に勤めていた夫が
突然リストラされてからもうすぐ一年

残高が増えることのない通帳を
見ていると頭が痛くなる

高給取りだった夫は、プライドが高く
見栄っ張りで前と同条件以上の職を
ずっと探しているが、今の時代にそう
簡単に見つかるはずもない

早期完済のために毎月の返済額を
多く設定した我が家のローンが
家計に重くのしかかる

普通預金通帳

「すぐに職を見つかるから大丈夫」
なんて夫は言いつつ通帳の残高なんて
気にもとめない

貯金が底をつく日も遠くないのに…

普通の主婦として生きると
引退する時に決めただけ

夫が働かないなら
私が働くしかない

ローンを返しながら生活費も
確保するには、アルバイトや
パートじゃとても足りない…

早くお金が稼げる場所…
芸能界に復帰するしかない

「美波ちゃん♡
こっちこっち」

「美優さん
お忙しいところすみません」

「ううん、
ちょうど今日は
オフだったから」

美優さんはアイドルを引退して結婚するが、
数年後に離婚し元夫のせいで多額の借金を
背負ったともっぱらの噂だった

その後個人事務所を設立して芸能界に復帰、
多方面に活躍中で既に借金も完済したらしい

きっと美優さんなら
力になってくれるはず…

夫がリストラされたこと
家計が火の車であること…
すべて美優さんに打ち明けた

「どうしても再デビューして
お金を稼ぎたいんです」

「力を貸してもらえませんか」

「美波ちゃんの事情はわかったけど…
引退した元アイドルが芸能界に復帰して
生きて行くのは簡単なことじゃないわ」

「相当な努力と覚悟をしないと私たちの
居場所なんてすぐなくなってしまうわよ」

簡単じゃないことはわかってる
今の私にどれだけの価値があるのか…
それでもきつとこれしかない

私…再デビューに賭けたいんです

「そり…わかったわ」

「力になれることは多くないけど…
身を削ってでも再デビューする覚悟と
決意が本当に美波ちゃんにあるのなら…」

「明日の場所をSoraの…」

そうやって美優さんは
小さなメモを私に手渡した

×モに書かれていた住所は裏路地にひっそりと佇む生活感のない一軒家のものだった

本当にこんな場所で合ってるのかしら…

…美波ちゃんいらっしやい入って突き当りの部屋まで来てもらえるかしら

言われた部屋に行くと…

「美優さんこれって…枕営業じゃ…」

それに美優さんのあのタトゥーは…?

男の人達の肉棒を啜え嬌声を上げる美優さんがいた

「み、美優さんっ!?!」

「美波ちゃんごめんね♥おじさまたちが我慢できなくて先に始めちゃった」

「いやあ…美優ちゃんとエッチするのも久しぶりなもんで」

「つい我慢できなくなって先に始めちゃったよ」

「ははははは」

「ここは各界のお偉方やスポンサーとセックスするためのヤリ家なの♥」

「結婚して引退したアイドルを支える熱心なファンなんていない。プロデューサーしてくる人もいない」

「それでも芸能界で生きていきたいならこうするしかないって美波ちゃんだって心のどこかでわかってたはず」

「だけど嫌なら帰っても構わないし、全ては美波ちゃん次第よ」

「…どうする?」

「美優ちゃんから聞いてるよ
美波ちゃん再デビューしたいんだって?」

「…はい」

「アイドルはたくさんいるのに
元アイドルになっちゃうと
どうしても需要が少ないからねえ」

「でもおじさんたちに任せてよ♥」

「いやいやまったくですな♥」

「美波ちゃんが頑張ってくれたら
良い仕事回してあげるからさ」

「うーん、美波ちゃんのカラダ
すべすべモチモチで触ってて飽きないよ♥」

「美波ちゃん経産婦とは思えないカラダしてるね♥」

「それにしてもまさか美波ちゃんと
ヤレる日がくるなんて思わなかったよ」

「アイドルの時から美波ちゃんのこと
いいなあっておじさん思ってたんだよ♥」

「あ、ありがとうございます…」

「そんなに緊張しないでよ
たくさん気持ちよくしてあげるからさ」

「赤ちゃんできてアイドルの時よりも
おっぱい大きくなったね♥
美波ちゃんのおっぱいは優秀なミルクタンクだね♥」

「なにがミルクタンクよ…
言葉も手付きも気持ち悪い…」



「おーっ♥
美波ちゃんの母乳出た♥」

「美波ちゃんのミルクタンクすごいね♥
シャワーみたい吹き出てくるよ♥」

「んあ…くっ…ふうっ♥」

夫以外の人で感じちゃいけないのに…
声我慢しなきゃいけないのに…
声が出ちゃう…この人の触り方上手い…

「おっぱい搾られて美波ちゃん
感じちゃってるんだね♥」

「だ、誰が感じてなんか…
くすぐったいだけです…ッ」

「テクニックには自信あるんだけどな」

「それじゃ美波ちゃんが
気持ちよくなれるように
おじさんもっと頑張るね♥」



「豊かな風味と甘味…
口いっぱい広がる
メス臭さが素晴らしい♥」

「アイドルの母乳を飲むだなんて
世の男たちは泣いて羨むだろうね♥」



「娘のためのおっぱいなのに…
吸われて感じちゃうなんて…っ」

「あっ…んっ♥ はあ…♥」

「ハムチュルル…♥
ズズチユチユチユルル
ツ♥」

「さてワシは下の味を
確かめさせてもらおうとしよう」

「処理されずケツ穴まで
毛が生えてるところを見ると
旦那とはご無沙汰のようじゃな」

「Panties」

キッ

キッ

「ククク…凶星のようじゃな」

「あ、あなたには関係ありません…っ」

「ずいぶんと威勢がいいじゃないか
もう少し自分の立ち場を弁えたほうが
いいんじゃないかね」

はっ

これも生活のため…
我慢しなくちゃ…

「…申し訳ありませんでした
娘が生まれてから夫とはしてません…」

「道理で少しイジラれただけで奥まで濡らして
物欲しそうに膣壁が収縮するわけじゃ」

くはあむ、

ひひ…

くちゅ

ひく

「それでは男に飢えた蜜壺の味見をさせてもらおうかの」

ズチユチユツ
ズズチユルルルル

「あつ…くう…
んはあ♡ あつ♡
はあ…♡」

ニギハヤヒニギハヤヒ

ニギハヤヒニギハヤヒ

この人…女が感じる場所を的確に責めてくる…っ

「くくく…
いくら吸っても舐め取ってもこの蜜壺からは蜜が湧いてくるわい」



「ぷるぷる甘露甘露♡」

「飢えた女の愛液の濃いと濃♡」

「次はこの火照ったマンコの具合を確かめさせてもらおうか」

「あがつ…♡
あつ…ふああつ♡」

「マンコの締めまり具合も素晴らしい愛液が止め処なく溢れ出てくるではないか」

この人の指遣い…女の気持ちいいとわかってる…

ん♡

「あひっ♡
はあああああ〜♡♡♡♡♡」

この状態でクリトリスまで刺激されたら…
おかしくなっちゃう♡

「メスの嬌声ほどオスを
刺激するものはないな」

こんなことされたら
気が狂っちゃう♡

「あっあっあっ♡
んほあああああ〜♡
ツ♡」

「上からも下からもメスの臭いを撒き散らして
男を誘惑するとなんでもない淫乱女じゃな」

「あがっ♡
あっ…あああ♡」

「くっくっくっ
潮まで吹きおったわ」

「いやあさすが■さんの
テクニクはすごいですなあ」

「美波ちゃんのカラダがもう
グシヨグシヨですよ♡」

「ワシの手にかかれば
どんな女もイチコロじゃよ」

こんなの…イヤなはずなのに…
夫でも感じたことないこの快感はなんなの

この人たち…
女の悦ばせ方を熟知してる…♡



「そろそろ本番といきますか」

「それでは約束通り私が最初に頂きますね」

「ぬう…約束じやからな
ここは君に譲るわい」

「待ってください…
それだけは…夫が…」

夫以外とセックスするなんて
やっぱりそんなことダメよ…

「おじさまたちが
興奮めするようなこと
言っちゃダメでしょ」

「私達はカラダを委ねればいいの。
そうすれば全部どうでもよくなるくらい
気持ち良くしてもらえるから♡」

「せめて…
せめてゴムだけは…」

「ちゃんと妊娠しないように
お薬もらえるから大丈夫♡
私も気持ちよくなれるように
手伝ってあげるから♡」

「美波ちゃん口を開けて」

「おじさま達の趣味なの♡」

「レズってるってこ
見たいんだって♡」

「なにを…んぐっ」

ブチュチュ♡♡♡
チュプツ♡ チュプテ

美優さんとキスしながら
男の人とセックスしてる…?

カラダがふわふわして
何がなんだかかわからない…

美優さんいい匂いするし
唇すこくやわらかい…

口もおっぱいも
クリトリスもオマンコも
とにかく全身が気持ちいい…

「んぶっ…美波ちゃんの唇やわらかい♡
女同士も悪くないかも♡」

「美女同士の絡みとは眼福眼福♡」

「ぬう…そんなの見せられたら辛抱ならん」

「ロでワシのをしゃぶってくれ」

「さん美波ちゃんのロマンコ
どんなもんですか？」

「なかなかどうして悪くない具合じゃ
君マンコのほうはどうかね？」

「素晴らしい締め付けと吸い付きで
チンポを啜えて離しませんよ。
とても子持ち人妻とは思えませんね」

「ん♡
ん♡
ん♡
ん♡」

こんな頭を押さえつけられて
無理矢理させられてるのに
どうして感じちゃうの…?

「あー、すごいマンコ締まってる。
上も下も突かれて感じるなんて
美波ちゃんはドスケベなんだね♡」

違う…私はこんな人たちと
セックスしたくなんてない筈なのに…
セックスしていいのは夫だけなのに…
なんで…どうして…

「やはり女を抱くなら若い娘よりも女盛りのメスじゃな。
男を悦ばせるメスのカラダになってるわい」

ん♡
ん♡
ん♡

「それじゃ今度はそのスケベな胸でワシのチンポをしゃぶりてもらおうかな」

夫にもこんなことしたことはないのに

「おほ
この乳圧たまらん♥
口でチンポの先もねぶつてくれ」

好きでもない人と…
しかも複数の男の人と
セックスするなんておかしいの…

我慢したくてもとんどん
気持ちよくなっちゃう…♥

我慢しないで大きな声で喘いだら…
きつともっと気持ちよくなれる♥

こんなおかしいセックス
してるんだから私だって
おかしくなっちゃってもいいよね

あなたごめんなさい…

私…おかしくなっちゃいます♥

夫とのセックスじゃ
カラダを突き抜けるような
快感味わえない…♥

「巨那のチンポお♥」

「旦那のチンポとどっちがイイ？」

「美波ちゃんノツてきたね♥
そんなにチンポ気持ちいい？」

「気持ちいいでしゅ♥」

「あひい♥
んっ♥んっ♥
んほおおおっ♥」

「ありがとうございませしゅ♥
オマンコにたっぷり注いでくだひゃい♥♥♥」

「素直になれたら褒美に
奥にたっぷり中出ししてあげるね♥」

「オラッ…
人妻マシコに
種付けしてやるッ!!」

奥にアツい大量の精液
キてるのわかる…♡

こんなことされたら…もう♡♡♡

「ワシも出すぞっ!!
たっぷり顔にぶっかけてやるわ!!」

「おっ♡ おっ♡ おっ♡
精液にまみれてイッちゃっ♡♡♡」

カラダの中も外も
濃いオスの匂いが
染み込んでくる…♡

「では次は私が…」

「いやいや■さん
ここは私が先に…」

「もう、おじさまあ♡
さっきから美波ちゃんばかりズルいですよ」

「次はおじさまたちのチンポで
美優のオマンコも可愛がってください♡♡♡」



「それにしてもチンポほしくて嫉妬しちゃうなんて
やっぱり美優ちゃんはドスケベだね♥」

「だって久しぶりに可愛がってもらえるって
すごく楽しみにしてたんですよ♥」

「それに美波ちゃんのおんなな淫らな姿を
見せられたらもう我慢できなくて♥♥♥」



「ちゃんと美優ちゃんのおまんこ
可愛がってあげるから安心して♥」

「えへへ…
ありがとうございます♥♥♥」



「あっ♥ はあっ♥ チンポ気持ちいい♥」

「美波ちゃんのほうが若いからって
美波ちゃん美波ちゃんって…」

「寂しくてさっきからずっと
オマンコ疼いてたんですよ♥」

「ごめんごめん
どうしても新しい玩具で
遊んでみたくなっちゃうんだよ」

「あくやばい♥
美優ちゃんの手さばき、舌遣い、腰遣い…
男を悦ばせるスケベテクニク最高♥」

「えへへ♥
それじゃもつと美優の
膚にしてみせますね♥」

「そうなんだよね〜
最近美優ちゃんとヤルのが
気持ちよすぎて他の女とヤッても
満足できないんだよね」

「くっ…ザーメン出すよッ」

「おじさまたちの濃厚ザーメンをカラダに
いっぱいぶち撒けてくださいっ♥♥♥」

「あくっ…出るッ
美優ちゃん出すよッ!!」

「あっ♥んっっっ♥
はああああん♥
濃厚ザーメンきたあ〜♥♥♥」



「あーん♥
せつかくのザーメン溢れてきちゃった」

「もったいないし美波ちゃん
お口開けてアーンして♥」

「ザーメンと愛液の特性ブレンド
味わって飲んでね♥」

「すごく卑猥な匂い…
頭がクラクラして…
カラダがアツくなって
アソコが疼いちゃう…♥」

「私の精液を美波ちゃんに飲ませてみるみたいで
なんかこれすっごくエッチで興奮しちゃう♥♥」

「さあ、美波ちゃんいつまでも呆けてないで。
まだまだおじさまたちはやり足りないんだから♥」

「いつもより張り切って
セックスしちゃうよ♥」

「おじさまつたら素敵♥
美優のオマンコにいっぱい
ハメハメしてください♥♥♥」

「これ以上あんな快感を味わったら
きつと抜け出せなくなる…」

「夫とのセックスじゃ
満たされなくなっちゃう」

「あれ…?」

「でも…」

「夫とはもうセックスなんて
してないんだからべつにいいか」

「だったら家族のためにオチンポ啜えて
気持ちよくなったほうがいいよね♥」

「美波も…
オマンコにオチンポ欲しい…です♥
人妻オマンコでたくさん
気持ちよくなってください♥♥♥」

「おじさまのチンポきたあ〜♡
す〜くアジ〜くでヤケ下しちゃうぞ♡」

「美優ちゃんの肉ヒダはやっぱり最高だね〜♡
精液欲しくてチンポに絡みついて刺激してきて
す〜く気持ちいいよ♡」

「私もおじさまのチンポで
気持ちよくなっちゃうてますっ♡♡♡」

「美優ちゃん俺のは回で気持ちよ〜♡」

「んぐ♡♡♡」

「んぐ♡♡♡ 又アチコ
又スチコチコチコ♡」

「あ〜気持ちいいよ♡
美優ちゃんはマンコもいいけど
こっちのロマンコも名器だね♡」

「あ〜♡♡♡ あん♡♡♡
はああ♡♡♡ んんん♡♡♡」

「美波ちゃんどうっ
気持ちいい？」

「オチンポす〜く気持ちいいです♡」

「おじさんも気持ちいいよ♡
す〜くにもっとよくしてあげるからね♡」

「お〜♡♡♡ お〜♡♡♡ お〜♡♡♡
んもほおおお〜♡♡♡♡♡」

「太い肉棒が膣壁を
ゴリゴリ抉ってくる…
こんなの初めて…♡」

君
ケツ穴もほぐれてきたことだし
君もマンコにハメたらどうかね？」

「さんいんですか？」

「もちろんワシは構わんよ」

「それではご相伴に預かります」

「さすがに二本入れると膣圧がすごいですね」

「まったくじゃ」

この締め付けは病みつきになりそうじゃよ
すぐにでも果ててしまいそうになるわい」

キスしてるだけなのにそれだけで
イっちゃいそうなくらい気持ちいい

「美波ちゃんもこの円を描くように
のびのびと声を前後左右にグラインドさせてみて♡」

「ジュジュですか？」

「そうそう♡
美波ちゃんセックスのセンスあるね♡」

「えへへ♡
ありがとうございます♡」

脳がジンジン痺れてもう
セックスのことしか
考えられない♡♡♡

その後も代わる代わる
何人も男の人に犯された

最後はほとんど記憶もなく
全身が性感帯のように敏感になって、
ひと撫でされるだけで快感が
カラダを駆け抜けるようだった

おー

あー

あー

はー

はー

はー

はー

「いやあ張り切って年甲斐もなく
やりすぎてしまったわい」

「私もこれ以上は
もう一滴も出ませんよ」

「それでは近いうちにワシの会社から
二人にいくつか仕事を回しておくからの」

「ウチは今度のゴールデン特番に
二人をねじ込んでおくからね」

「美波ちゃんがやりたがってた
連ドラに役を用意しておくから」

「昼のバラエティ番組にファッションコーナーあるんだけど
そのファッションモデルに美波ちゃんどうかな？」

「他にも仕事あったら連絡するからよ」

「それじゃ二人ともまたよろしくね♡」

あの日以来すぐに仕事の連絡があつて
すぐに再デビューすることができた

久しぶりに戻ってきたこの世界は
とても眩しく輝いて見えた

その後も夫への罪悪感を感じながら、
家族のためにという建前をかざして
何度も男の人たちとカラダを重ねた

仕事も増えてきて家事と両立させながら
どうにか軌道に乗るようになった

そして私の収入だけで家族を養い
月々のローンを返済しても手元に
残るお金も増えてきた

一方で夫は未だに職を
見つけられずにいた

—そんなある日、
何の前触れもなく
離婚を切り出された

ブライドの高い夫には芸能界に復帰して
家族を養う私と、いつまでも無職の自分を
周囲に比べられるのが耐えられないのだから

この人はどこまでも身勝手に
自分のブライドばかり…

私との結婚だって今思えば
見栄のためだったのかもしれない

でも今となつてはそんなことは
もうどうでもいいことだ

私の中にあつた愛情や罪悪感が
離婚を切り出されてスーッと消えていった

私は躊躇うことなくその場で
差し出された離婚届にサインした

あんな人なんていない

私はシングルマザーとして
生きていくことに決めた



お仕事があつて

十分なお金があつて

愛する娘がいて

たくさんのお金に
愛を注いでもらえる

今の世の中は
お金の力
♥



こんにちは。柊はじめです。
お手にとっていただきありがとうございます。
特にコミケ会場で手にとって頂いた方には、
暑い中わざわざお越し下さりありがとうございました。

次のイベント参加はCOMIC1☆14の予定です。
サクカが用意できず美波で申し込んでありますが、当選したらシャニマスの
恋鐘のエッチな本を予定してます。
でもこの本を作ったらデレマス催眠本もいいなあとか思い始めました。
冬コミは文香で申し込みます。受かったら文香のエッチな本と17年と18年
のイラストまとめ本を出したいと思ってます。
それでは、また是非どこかで新刊を手にとって頂けると嬉しいです。
pixivやtwitterもよければ覗いてやってください。



【pixiv】



【twitter】

【誌名】Act of Darkness
【著者】柊はじめ
【発行元】Re:Cre@tors
【発行日】2018年8月12日
【連絡先】recreators1990@gmail.com
【印刷所】プリンティングイン株式会社
pixiv FACTORY BOOKS

ACT OF DARKNESS